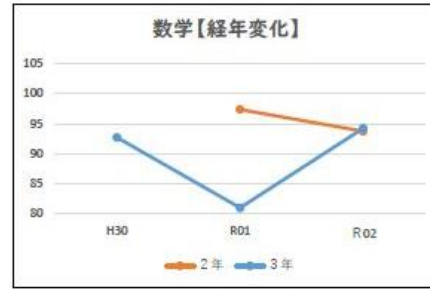
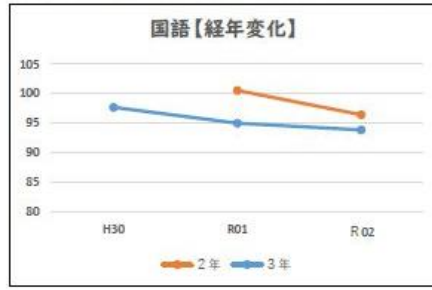


I 令和2年度末までの学力の状況把握(令和2年度 釧路市標準学力検査より)
1. 各学年の経年変化(目標値を100としたときの、各学年の状況)



※釧路市標準学力検査結果の経年変化や到達度の割合から見られる各学年の特徴・成果・課題等

○2年生の国語では、目標値を100としたときの到達度の割合が、目標値を下回っているのが課題といえる。特に、根拠を明確にして話すことや、文法に課題が残った。

○2年生の数学では、目標値を100としたときの到達度の割合が、目標値を下回っているのが課題といえる。特に、「正の数・負の数」の基礎的な知識の習得や、計算技能の低さに課題が残った。

○3年生の国語では、目標値を100としたときの到達度の割合が、減少傾向にあり、課題といえる。特に、文章を読み解く力や文法に課題が残った。

○2年生【現3年生】の数学では、目標値を100としたときの到達度の割合が、昨年度と比べると大きく増加したことが成果といえる。しかし、目標値にまだ届いていないことが課題といえる。特に、「式の計算」と「1次関数」の学習内容の習得に課題が残った。

II 各学年における成果と課題、令和3年度の取組 (○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

学年	国語	数学
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の国語では、小学校において学習したことを生かして、話し合い活動を取り入れながら自他の考え方を練り上げていく授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の数学では、算数で学習した内容をもとにして、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に身につくように効果的に確認問題に取り組ませる。
成果と課題について		
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の内容正答率で、漢字を書く項目が目標値を上回った。 ○問題の内容正答率で漢字を読む項目が目標値を上回った。 ○伝統的言語文化の項目で領域別正答率が目標値と同程度であった。 △目標値に対して「話すことと聞くこと」「読むこと」の領域と文法に特に低い結果が見られるのは、読解力に課題があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇放課後学習や家庭学習を活用して、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図っていく。 ○問題解決の授業を日常的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を目指して授業改善を進めていく。 □基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、定着プリントを用意し、できるまで繰り返し取り組ませる。 ◎学習内容の定着を図るために、練習問題を解く時間を今後より一層確保していく。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の内容正答率で、漢字を書く項目が全国平均を上回った。 ○問題の内容別正答率で、漢字を読むこと・書くこと・話し合いの項目が目標値を上回った。 △「文法事項」の定着「読むこと」が大きな課題である。基本的な文法事項の定着が不十分であること、文章の中心を捉える力の補充が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇継続した漢字指導の定着を図りたい。 ○基礎的な文法事項の反復練習を授業の中で取り上げる回数を増やしたい。 ◎「読むこと」の能力を育成するためには、文章を読み込む際中心文を把握することや重要語句を見逃さないためのスキルが必要なので、粗筋を捉える要約や根拠を提示できる感想文の指導などを意識的に授業に盛り込み指導を図りたい。 ◇放課後学習や家庭学習を活用して、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図っていく。 ○問題解決の授業を日常的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を目指して授業改善を進めていく。 □基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、定着プリントを用意し、できるまで繰り返し取り組ませる。 ◎学習内容の定着を図るために、練習問題を解く時間を今後より一層確保していく。

III 学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 △:課題

授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数指導を効果的に実施し、個に応じた指導を充実させることができた。 ○加配教員を活用して、生徒一人一人の状況に合わせて対応することで基礎的・基本的な学習内容の定着につなげることができた。 △今年度の研修では「生徒の考えの比較」を取り入れた授業づくりを目指して、主に対話的な学びの充実を図ろうとしていたが、校内での授業交流が進められず課題が残った。 △生徒の活動時間が少なく、教師の説明が授業の大半を占める授業が行われていることが大きな課題である。
環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律の重点化を図り、各教科で統一して指導することで、落ち着いた雰囲気の中で授業をすることができた。 ○各種調査の結果を分析し、成果と課題を全体で交流することで、授業改善の方向性を明確にすることができた。 △放課後に学習室を開放し、家庭学習で使用できるプリント欄を設置したが、進んで取り組む生徒はまだ少なかった。
習慣づくり	<ul style="list-style-type: none"> △モーニングテストの取組が学力向上に十分結びついていなかった。 △家庭学習への取組に個人差が出ており、学力差にもつながっている。

② 改善の方向性について

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎:改善する取組 等)

<ul style="list-style-type: none"> ◇昨年度に引き続き、習熟度別少人数指導(数学・英語)やTTなどの授業方法を工夫して生徒一人一人の状況に応じた指導を継続していく。 ◇昨年度に引き続き、すべての授業において、本時の目標(ねらい)を明確にし「まとめ・振り返り」や「練習」の時間を確保することで、学習内容の習得を図る。 □発達段階に応じた宿題を効果的に出していくことで、学習内容の確実な定着を図る。 ◎校内研修においては、昨年度に引き続き「生徒の考えの比較」を取り入れた授業づくりを行い、主に対話的な学びの充実を図れるように授業交流や授業検討会を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ◇学習規律の重点化を図り、各教科の統一した指導で集中して学習に取り組めるような環境を引き続きつくる。 ◇GIGAスクール構想で生徒1人に1台パソコンが割り当てられるので、全ての学習において、ICTの効果的な活用ができるよう、教務部と学力向上推進部が連携して、実践事例などを紹介していく。 □学習内容の確実な定着を目指して朝学習の取組を開始し、朝学習の内容の定着の状況をモーニングテストなどで定期的に見取っていく。
<ul style="list-style-type: none"> □学習内容の確実な定着を目指して朝学習の取組を開始する。 □朝学習で取り組ませている「基礎基本定着プリント」を繰り返し取り組ませ、その定着状況をモーニングテストなどで定期的に見取っていく。 □朝学習やモーニングテストなどで定着状況がよくない生徒については、放課後学習に参加し、きめ細かい指導で学習内容の定着を図る。 ◎家庭学習については、学習課題や宿題の内容を工夫して生徒の学習意欲を高めながら、家庭学習の充実と習慣化を図っていく。